

わかちあう 仕事も家庭も喜びも



二宮町男女共同参画シンボルマーク

～ その① 男女の活躍で、広がる地域活動 ～

関係団体や有識者、一般公募などの委員からなる男女共同参画プラン推進連絡会では、より町民の皆さんに親しみやすい形でプランを進めるため、意見提案などを行っています。

今回、4名の委員から「地域活動への参加」をテーマにご意見を伺いました。

松本篤子さん(一色)

元二宮町男女共同参画プラン策定委員会会長

「夫婦の理解と協力が一番大切！」



NHK「篤姫」人気の背景には、自主性のある女性の姿に対する多くの女性の共感があると思います。性別だけで捉えることなく、一人の人間としての生き方を考えていく意識や体制づくりが必要です。そして一番重要なのは夫婦が理解・協力し合い、地域活動や家事を、働く場の仕事と同等に考えることでもあると思います。



岡崎宜子さん(松根)

子ども会育成会連絡協議会(子ども会本部)役員

「地域活動で子どもに自主性、私に自信」

地域の子ども会では、普段から家にいる確率が高い母親が活動に参加するのが一般的でした。子ども会本部では、男性の委員が多く、夜間に活動することも増えましたが、やる気があれば女性でもできるという自信が持てました。また、親が地域活動をしていると、子どもも参加するようになり、子どもにも良いことと思います。



男女を問わず、自分の可能性にチャレンジできる社会なんですね。



川上良子さん(百合2) 国際ソロプチミスト二宮役員

「女性の持つ特性を生かしていくのが第一歩！」

「男子厨房に入らず」の時代から、夫婦が並んで家事をするのが珍しくない時代になってきました。

それでも地域組織の代表に女性が少ないのは、昔の習慣が残り、身を引いてしまうのかもしれませんが、女性の特性を今の社会の中でどう生かすのかが、男女共同参画の第一歩。個性を發揮するためにも、積極的に地域活動へ参加する意識も必要ですね。

高橋武士さん(越地)

元越地地区長

「社会問題は、男女の協力によって解決を」



地域の役員を選ぶとき、女性の参加を望んでいますが、風土的なものでしょうか、女性の会議などでの発言は少なく、会議などではまだ発言しにくいようです。

しかし、社会の決まりは男女で作るものなので、公正な社会を構築していくためにも、個人の意見が出しやすく、多様な個性が活かせる社会を作ることによって諸問題を解決していきたいですね。

性別にとらわれることなく、一人の人間として個性を發揮できる社会の実現は、家庭や職場だけでなく、高齢化にともなう介護や子どもの安全といった地域社会におけるさまざまな問題にも解決の可能性が生み出されます。

皆さんも地域活動という身近な視点の一つから、男女共同参画社会を考えてみませんか？

※次回は「誰もが働きやすい職場づくり」をテーマに、委員のご意見を伺います。

問い合わせ 企画室企画調整係



二宮町男女共同参画シンボルマーク

わかちあう 仕事も家庭も喜びも

～ その② 誰もが働きやすい職場づくり ～

10月号に引き続き、町男女共同参画プラン推進連絡会による座談会からご意見を紹介します。



松本篤子さん
元プラン策定委員会会長

「職場の取り組みと女性の意識が不可欠」

育児休暇の保証やフォローをする社員の負担軽減といった取り組みも大切ですが、大変な仕事にも踏み込もうとする女性の意識も必要ですね。



飯島玲子さん
コンサルタント会社課長

「実践者のPRとネットワークの確立が効果的」

職場での意識を高めるため、有志で情報交換をするネットワークを立ち上げたり、家事もこなす優秀な男性社員をPRしたりすることも効果的でしょうね。

「地域との関係も、子育てには大切」

小規模企業では人間的な面で育児休業の取得などが難しい事もあります。昔のように親戚や、近所の人など、地域の協力も子育てには大切でしょう。



内田勝康さん
中农信金 二宮支店次長

座談会では「誰もが働きやすい職場づくり」を進めるため、次のような提案が出されました。

- ♥ 小さな企業が単独では難しいが、複数企業で協力して託児所を設置できるのではないかな。
 - ♥ 育児中の社員をフォローする社員に、仕事量に応じた給料を払うことで、負担や不満を軽減できるのではないかな。
 - ♥ 育児休暇だけでなく、介護や体調不良などで困っている社員にも多様な労働形態を選択できるようにしたら、不公平感を減らせるのではないかな。
- ※次回テーマは「日常生活を振り返って」です。

| | | 主に夫 | 主に妻 | 同程度 |
|--------|-----|------|-------|-------|
| 食事の支度 | 共働き | 1.6% | 80.3% | 10.2% |
| | 片働き | 0% | 92.4% | 5.9% |
| 食事の片付け | 共働き | 1.9% | 74.1% | 18.5% |
| | 片働き | 2.8% | 74.5% | 18.9% |
| 掃除 | 共働き | 1.9% | 73.8% | 14.0% |
| | 片働き | 2.8% | 78.3% | 14.2% |

家事の分担割合
共働き世帯は片働き世帯に比べ、妻が負担する家事の割合は若干低いようですが、依然として妻が主に家事を行っている家庭が7割を超える高い比率である事が伺えます。

昨年、男女共同参画の意識や状況などについてのアンケートを実施しました。町内在住の20歳以上の方1000名（無作為抽出）を対象に実施し、418名（41.8%）から回答をいただきました。結果を抜粋して報告いたします。

● 男女共同参画アンケート 数値でわかる男女の平等

社会全体における男女の地位

男性でも約64%、女性に至っては約80%の人が、男性が優遇されていると回答し、依然として男性優遇の意識が強い傾向が伺えます。

| | 男性が非常に優遇 | どちらかといえば男性優遇 | 平等 | どちらかといえば女性優遇 | 女性が非常に優遇 | 不明 |
|------|-------------|--------------|-------------|--------------|----------|-------------|
| 男性回答 | 13人 (7.5%) | 98人 (56.3%) | 33人 (19%) | 12人 (6.9%) | 0人 (0%) | 18人 (10.3%) |
| 女性回答 | 34人 (13.9%) | 157人 (64.3%) | 21人 (8.6%) | 8人 (3.3%) | 0人 (0%) | 24人 (9.8%) |
| 合計 | 47人 (11.2%) | 255人 (61.0%) | 54人 (12.9%) | 20人 (4.8%) | 0人 (0%) | 42人 (10.1%) |

※このアンケートの詳細は、町ホームページでご覧いただけます。
企画室企画調整係 問い合わせ

わかちあう 仕事も家庭も喜びも

～ その③ 女性の性と人権の尊重 ～



二宮町男女共同参画シンボルマーク

性別にとらわれず、1人の人間として個性を發揮できる「男女共同参画社会」。その実現には出産や育児といった女性の性に関わる権利について、しっかりと考える必要があります。

第3回となる今回は、女性の性と人権をテーマに、男女のあり方や、心身を健康に保つ方法などについて、町男女共同参画プラン推進連絡会による座談会の中から出たご意見を紹介します。



添田稔子さん

**「社会を変えるには、
まず自分を変える」**

社会を変えるには、まず自分が社会に出て、人と会話し、時には自分が変わらなければいけません。

人との会話は、自己の再認識だけでなく、心の健康を保つためにも大切です。



松本篤子さん

**「性への偏見をなくし、
意志の疎通を大切に」**

世の中には、子どもを産みたくない人や産めない人もいます。男女が尊重しあえる社会を築くには、普段からよく話し合い、「子どもを産むべき」という偏見を捨てることが大切です。

**「感謝の気持ちを
忘れないように」**

固定観念を取り除き、男女がお互いに尊重し、感謝の気持ちを忘れずに持つことができれば、男女共同参画の考え方も浸透しやすくなるはず。

「自分」をきちんともって、意見を伝える勇気も必要です。



吉川富美代さん

6月23日から

29日までの一週間は

男女共同参画週間

男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」。その実現のためには政府や地方公共団体だけでなく、皆さん一人一人の取り組みが必要です。

当町でも「二宮町男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向け、さまざまな事業に取り組んでいます。

この機会に私たちのまわりの男女のパートナーシップについて考えてみませんか？

問い合わせ 企画室企画調整班



わかちあう 仕事も家庭も喜びも

～ その④ 日常生活をふり返って ～



二宮町男女共同参画シンボルマーク

社会制度や慣行は、それぞれの目的や経緯をもってできたものです。しかし、時代や意識の変化を含めて見直すと、結果的に男女の平等にそぐわない場合もあります。

今回は日常生活のふり返りをテーマに、男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革の手法などについて、町男女共同参画プラン推進連絡会による座談会の中から出たご意見を紹介します。

「リーダーシップを 男女が発揮できる時代」

男女共同参画意識は教育の場でもっとも浸透しています。子どもが学ぶことは、今後職場や家庭、地域で生かせる重要なことです。

最近では男女問わずリーダーシップを発揮できる時代になったと感じています。



能島榮之助さん

「問題を解決するには 調整力を働かせて」

脈々と受け継がれてきた習慣は簡単には変えられません。世代や環境で価値観が異なることもありますが、問題を解決するためには調整力をうまく働かせることが大切です。また、悪い習慣を次世代に伝えない勇気も必要です。



桑田正明さん

「気づきの力を 養ってもらうには」

男女共同参画の推進には、「気づき」の力が必要です。普段意識していない人をどうするかが問題だと思います。

「気づき」の力を養うには生活の中での疑問を、ふり返って考えることが大切です。



松本篤子さん

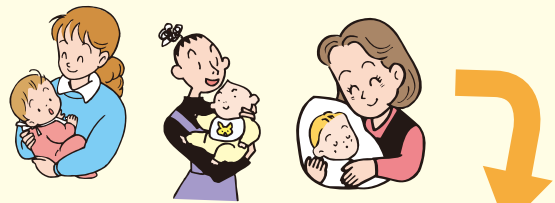
今回でこの連載は終了しますが、今後もさまざまな情報を発信していきます。

隠れたイメージを 読み解く力を!

テレビやラジオ、新聞といったメディアが伝える情報には「現実」そのものではなく、一定の狙いや観念によって作られたものもあります。

そのため意識して読み解く力がないと、「男は仕事、女は家庭」といったような、隠れた社会的性別のイメージがすり込まれてしまう危険性があります。

例えば、右上のように「育児のイラスト」が並んでいた場合、皆さんはどのように感じますか？



このような写真だけでは「女性＝育児」というイメージを読者にすり込んでしまい、男性が育児に関わるイメージを薄めてしまいます。

「本当はどうあるべきか」を読み解く力が、男女共同参画社会の実現には必要な能力なのです。

問い合わせ 企画室企画調整班

